

小豆餅ゆすらうめこども園 自己評価

	保育の中での学び、気づき、今後の見通し	保護者・職員との対話の中で心がけたこと・反省等	園務分掌(クラス・グループ・係等)運営・役割の中で考えたこと
職員 の 思 い ・ 考 え	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が落ち着いて行動することで子どもも安心するということを学んだ</li> <li>未満時の伝統文化への参加について、次年度は考えていきたい</li> <li>子どもの気持ちを受け止め、関わり方を伝えたり他の遊びに誘ったりという対応が丁寧にかかわれるようになったことで秋以降のお部屋の雰囲気落ち着いてきた。そのため、子どもの成長やあそびの姿が見えるようになった。</li> <li>保護者との関係づくりの中で、日々の対話が大切だと実感した。子どもたちの今の姿を伝え、母への根ぐらいの言葉をかけながら家庭での様子を聞く、対話を心がけていきたい。</li> <li>0歳児の時から積み重ねが子どもの中に基盤として育っていると多少の環境変化があっても柔軟に対応できると実感した。</li> <li>日々の保育の振り返りや環境の見直し、気になる子への対応の仕方などお互いに話をする機会を多く持つことができた。“話すこと”が大切であることを実感し、今後も「対話」する時間を大切にしていきたい。</li> <li>“声をかけすぎず、信じて待つ”ことが大切。</li> <li>大人に余裕がないと十分に見守ることができないので、時間と気持ちに余裕をもって生活していきたい。</li> <li>一番大切なのは、その人を受け止めること。子どもも保護者もありのままのその人を受け止めるところから始めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者から困っていることについて質問を受けるようになってきたので真摯に受け止め、対応していきたい。</li> <li>多職員間の横の連携がうまく機能していた。</li> <li>困ったときに声を出し、ほかのクラスでも協力体制をとれるようになってきた。また、困ったときにすぐに話し合い解決することが多くできた。</li> <li>短くてもクラス内での話をする時間をとるように心がけ、メモを活用するなどして、意思疎通を図った。</li> <li>自らの悩みや不安を言葉にして職員間で相談することで気持ちが楽になり一歩前に踏み出すことができた。</li> <li>日々の努力が信頼関係につながったと思う。信頼関係は、一朝一夕に築けるものではなく積み重ねていくことが大切と改めて感じた。</li> <li>乳児～幼児のつながりの大切さを実感した。未満児と以上時の職員間の現状を把握し嘔吐する気持ちをもっと強くしていく必要を感じた。</li> <li>職員間の情報交換や意見交換を密に取ることでお互いの不安を払拭し、助け合うことでより良い保育ができると感じた。</li> <li>個別でノートのやり取りをしたり面談を行ったが、うまく伝わらないことがあり難しさを感じた。子ども同様保護者もその人に合った方法で対応することが大切だと実感した。</li> <li>自分の気持ち「困っていること」「気になること」を言葉にすると気持ちが軽くなった。職員同士も言える言い合えるようにしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園務分掌について、今年度の係については、仕事を覚え、活動してきたが、保護者にうまく伝えられず残念であった。</li> <li>日々の連絡事項やお知らせを朝の15分会議で話すようにしたが、保育の内容についてももっと話をできるとよかった。</li> <li>係全員で顔を合わせることなく、例年に照らし合わせながらの活動になってしまった。話し合い、情報を共有することは大切なので次年度は、集まって情報共有等していきたい。</li> <li>休憩やノーコンタクトタイムで気持ちを切り替える必要を感じた。まとめてとることが無理でも午睡時、夕方などこまめに隙間の時間をとることを心がけるとともに周囲の職員が取れているかについても視野を広げていきたい。</li> <li>係として備品のチェック・補充について、時間をとることが難しかった。次年度は、今年度の備品について1年間の量を把握し、買い置きが可能なものは、まとめて購入することを提案した。</li> <li>「くるしい！」と思うことは改善・見直しをする。より良い方向へ進めていけるよう考えていきたい。</li> <li>クラス・グループの処理尾の見直しをしたり、成長の記録等の時間の取り方なども考えて実施できた。</li> <li>職員はもとよりつくし会役員の皆さんともよく話し合う機会を持つことができた。職員が、自主的につくし会役員との三役会に参加してくれて、とても心強く思った。</li> </ul>
ま と め ・ 次 年 度 へ の 展 望	<p>コロナ禍で、生活様式が大きく変わる中で、子どもたちと考え、話し合うことで保育の神髄（子どもたちの力を信じるということの意味、主体性を育むということは、子どもたちから聞くことから始まる）を探り、職員はもちろん保護者とも共有してきた。</p> <p>「対話」することを大切に子どもの本心に耳を傾け、一人ひとりの子どもが何を考えどうしたいと思っているかを受け止め、大人からの一方的な活動ではなく子どもたちが気持ちを盛り上げてやりたいことへ挑戦できる活動を実践できたと感じる。次年度も子どもたちの思いに寄り添った教育・保育を展開していきたい。</p>	<p>職員の保護者への対応について、一方的ではなく、保護者に合わせた対応が必要だという気づきが見られ、大人に対しても子どもに対しても人として向き合うことが大切であることを実感してくれているようでうれしく感じる。</p> <p>対保護者、対職員誰に対してもまずは、気持ちを受け止めることを優先し、そのうえで「対話」をすることでお互いの思いを理解できるように話していこうとする姿勢の必要性を強く実感してくれていることを頼もしいと感じた。子どもたちのために私たち大人ができる事を職員・保護者連携して模索していきたい。</p>	<p>職員から、自分たちが仕事を進めやすくなり様に提案がたくさんあり、職員の主体性も育っていると感じる1年であった。</p> <p>つくし会の役員とも話し合う機会をたくさん作ることができ、講演会や会長を囲んでお話をする会などの企画を実施することができた。今年度大切にしてきた「対話」を実践してきたことがつながっていると実感した。</p> <p>次年度も大人も子どもも「対話」を大切にたくさんの人とつながっていけるとよいと感じる。</p>